

■「2歳児の実践から・・・自然との触れあいの中で」

小室 真諭美 (幼児教室すなやま園)

私事ですが、すなやま園に勤務して33年の月日が経ちました。4・5歳児担任が多かったのですが、なんと今年は初めての2歳児の担任となり、嬉しいやら体力的に不安になるやらで・・・それでも毎日子どもたちの笑顔に支えられながら2歳児ギャングたちと過ごしています。(男児6名 女児9名 担任1名 保育補助2名)



両親から離れて初めての集団生活に、どの子どもも心も身体も不安でいっぱい2歳児です。そんな心や身体の堅さをいろいろな素材(水・砂・絵の具・新聞紙・段ボール・絵本)との出会いを大切に一人ひとりが満足のいくまでやりきること、仲間との関わりを広げています。

自然とのふれあいのお散歩も大切に、じっくりゆっくりと花や木の実拾いなど楽しんでいます。まだまだこれから進化する子どもたちに、期待でいっぱいです。



■「おはなしの主人公とのやりとりから生まれた絵本」

藤居 紀子・安田真希 (関町第二保育園)



5歳児クラスでは、おはなしの主人公と手紙などのやりとりを通して、友だちと一緒に想像の世界であそぶ経験をしています。

今回は「てのりにんじゃ」という絵本の中の「にんじゃ」とのやりとりを楽しんでいた子どもたち。絵本の世界をもとに、子どもたちが体験したことを交えながらストーリーをみんなで考えました。一人ひとりが描きたい場面を選び、グループに分かれて絵を描き、「自分たちがイメージしたものを友だちとのびのび表現し、形になる喜びを味わう」というねらいのもと、世界でたった一つの素敵な絵本ができました。



■「生活や人との繋がりの中での描画の活動」

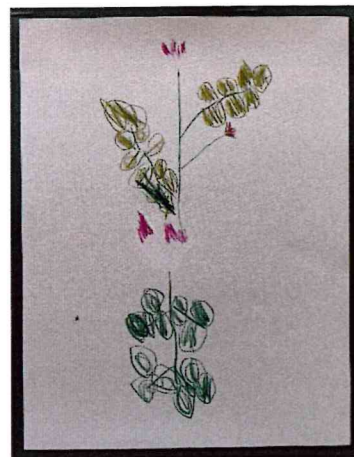
—2025年度5歳児 1学期の実践を通して—

堀 新菜 (和光鶴川幼稚園)

・目の前の子どもの姿から実践を作っていくことを大切に

毎年、扱っている題材でも、“どんな画材を使って描くか”“苦手意識のある子どもどんな題材や画材なら描いてみたいと思えるか”“目の前の子どもたちの様子から考えることが大切だと考えています。

今までは鉛筆を使って描いていた「たけのこ」を絵の具とクレヨンを使って描いたり、絵の具を使うことの多かった草花の中で「れんげそう」を水彩色鉛筆を使って描いてみたりしました。新しいことに挑戦する中では振り返ることもたくさんあり反省も多かったのですが、こうやって考える時間が大切だと改めて感じる中で実践を重ねてきました。



■「3色の色鉛筆でお菓子を描こう！」

入間川 由里子 (ブーピー工房)

赤 青 黄 の色鉛筆だけを使い、お菓子を描きました。3色に描くことに慣れてもらうために、最初に自由に色混ぜをしてウォーミングアップ！好きな形に切り取り、スケッチブックに貼りました。

今まで絵の具の3原色で描く授業はしていて、色鉛筆では初めてでしたが、皆良い作品ができました。



■「かかない」にかくれたねがい～いま、なかまとともに“くらし”をかく意味を考える～

小野 はぎ (奈良教育大学附属小学校)

なかまとともにくらしを見つめて表現することを大切にしたいと思ってきました。今年度担当している低学年のどのクラスにも、複数人、授業に参加しづらい子どもたちがいます。それぞれの生きづらさを想像しながら手探りで関わるなかで、「かかない」「いやだ！」ということばの裏にあるねがいが少しずつ見えてきました。彼らの表情やことばをたよりに、作品にこめられたねがいを読みとりしたいと思います。



■5年生 物語を描く 絵本「きこえないこえ」

野々垣 実歩 (和光鶴川小学校 美術専科)

昨年の夏、新作絵本「きこえないこえ」と出会い、5年生で初めて物語絵を実践しました。物語のテーマは「生と死」。子ども達が、どの場面に心を寄せ、どんな色で物語の世界に迫っていったのか、作品と彼らが語った言葉を紹介していきます。絵本を生み出した作家内田麟太郎、画家竹上妙さんとの交流もレポートします。

